論文

「高等教育の輸出産業化と世界の大学ランキング」

永田　雅啓　*Masahiro Nagata*
（一財）国際貿易投資研究所　客員研究員
埼玉大学　教養部　教授

要約

高等教育、もう少し広く言えば教育全般はある意味で神聖なものとされ、商業主義とは一線を画すべきだという考え方は、特に教育関係者を中心に多い。筆者もそうした考え方に異議を唱えるものでは無いが、その一方で、教育活動と経済活動との間には密接な関係があり、経済的な側面を無視しては、良い教育も成立しない。過去 10 年間で世界の高等教育で起きている顕著な変化の一つは国際化である。すなわち、教育サービスを提供する主体も教育サービスを受ける需要者も、一国の中では納まらず、国境を越えて教育サービスを供給・需要する傾向が顕著になってきている。さらに、社会全体が知識集約型産業に移行する中、高等教育の重要性がこれまで以上に高まってきている。本稿では、こうしたコンテクストの中で高等教育をサービス貿易という側面から捉え、その現状を分析してみたい。

1. サービス貿易としての高等教育

一般的にサービス貿易と言った場合、その内容は多様である。例えば、運輸、保険、金融、ソフト開発、観光、知的財産権など、性格の異なるものが多く含まれている。また、モノの貿易と大きく異なるのは、サービスは生産と消費が同時的に行われる点である。このため、モノの取引の場合は、生産者と消費者が物理的に離れている場合が一般的だが、サ

ービス貿易の場合は、生産者と消費者のいずれか、あるいは両方が移動してサービスの生産と消費が同時に行われる形態も多い。この関係を示したのが、表1である。

このうち、表のカテゴリーⅠにあるように生産者・消費者がともに動かないパターンには、ソフトウェアの開発のように、通信回線を通じて両者が動かなくてもサービスをやり取りできるものが含まれる。これはモノの貿易と同じである。また、サービスの中には、モノに体化して輸出入されるものがある。例えばドレスのデザインとか、コンピュータや工作機械に付随したソフトウェアのようなものがこれに当るが、これもカテゴリーⅠに該当する。また、表のカテゴリーⅡにあるような、生産者が動いて消費者が動かない例としては、金融機関が相手国に進出して金融サービスを行うパターンなどが考えられる。表のカテゴリーⅢにあるように、生産者が動かず、消費者が動く典型は、観光だろう。最後のカテゴリーⅣのパターンは、生産者と消費者が共に第3国に出てサービスを受ける場合で、海外に進出したホテルに第3国の観光客が来て宿泊するケースなどが考えられる。

表１　サービス貿易の分類

		生産者	
		移動なし	移　動
消費者	移動なし	Ⅰ. 国境貿易	Ⅱ. 要素収益貿易
	移動	Ⅲ. 現地貿易	Ⅳ. 第3国貿易

（出典）佐々波、浦田（1990）

http://www.iti.or.jp/

さて、こうした枠組みで分類してみると、これらのカテゴリーのいずれにも高等教育の国際的な取引が含まれる。例えば、欧米の大学院の中には、学生が自国にいる状態で単位が取れる通信教育のコースを提供しているものも多い。これは、基本的にカテゴリーⅠに属する。また、80年代には多くの海外の大学が日本に開校することを望んだが、これはカテゴリーⅡに属するサービス取引に該当する。また、カテゴリーⅣに属する形態、例えば、英国の大学が上海に進出し、そこで開催されるサマースクールに日本の学生が参加するなどの形態も存在する。しかし、高等教育の国際取引で最も大きな比重を占めると思われるのは、少なくとも現時点では、カテゴリーⅢに属する形態、すなわち海外留学である。

２．輸出産業としての高等教育

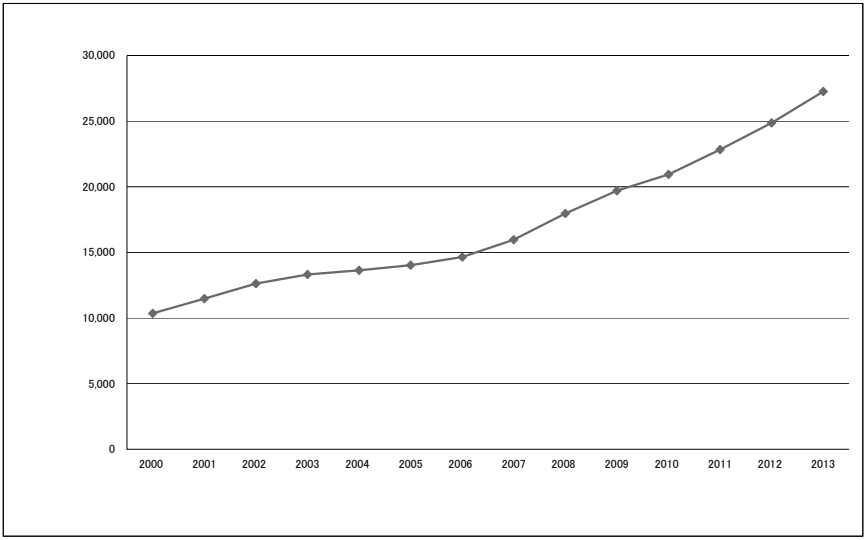
Hazelkorn（2015）によると、世界全体の留学生数（自国以外で高等教育を受ける学生数）は、2000年の200万人から2013年には430万人を超え、2025年には720万人になると予想されている。こうした留学生を自国の高等教育に取り込み、授業料を払って滞在してもらうことは、自国の理解を高めたり、将来の外交関係を深めたりという目的だけでなく、直接的に自国の経済利益として認識されるようになってきている。こうした面で最も大きな市場シェア（金額ベース）を持つのは米国であろう。図1は、アメリカの教育輸出額[1]の推移を示したものだが、過去10年ほどで3倍近くに増大して2013年は272億ドルに達し、テレコミュニケーション&情報通信輸出の334億ドルに匹敵する大きなサービス輸出額を記録している。実際、アメリカでは高等教育を一つの輸出産業と位置付け、留学生の獲得に商務省が乗り出している。こうした高等教育を輸出産業と明確に認識して輸出促進に励んでいる国としては、アメリカ以外にオーストラリア、イギリス、フランスなどがある。イギリスでは留学生に対して国内の学生に対するよりも高額の授業料を設定し、そこで得られた収益は大学の研究費に回すなど、留学生からの収入は大学の研究・教育活動を支える上で重要な柱になっ

http://www.iti.or.jp/

ている。また、フランスでも留学局（Campus France）を設置し、大使館等を通じて現地での留学生の獲得に戦略的に取り組んでいる。

図１　アメリカの教育輸出額の推移（2000-2013）

単位：100 万ドル



（資料）BEA, Department of Commerce

ドイツや日本では、こうした動きに対してどちらかと言うと批判的で、高等教育の伝統的な価値観を守ろうとしているように思われる。しかし、慎重姿勢のドイツにおいても、国際環境が大きく変化してきている現状では、かつてのように国内の活動だけでは完結することはできない。すなわち、内外の優秀な学生を確保するためには、大学間の国際競争を意識せざるを得ない。また、学生だけでなく、優秀な研究者を獲得するためにも大学は国際的な競争を避けては通れない。

３．高等教育の国際競争とグローバル・ランキング

大学の国際ランキングに関する歴史は長いが、2003 年に上海交通大学が国際ランキングを発表した頃から、こうしたランキングに対する国際的な関心が高まってきた。現在、世界には 10 以上の大学グローバル・ランキングが存在するが、主要なランキングとして引用されるのは、次の 3 つである。

・上海交通大学の Academic Ranking of World Universities（ARWU）
・ Times Higher Education World University Rankings（THE）
・QS Top Universities（QS）

（1）グローバル・ランキングは何を測っているのか

グローバル・ランキングが何を指標として大学を評価しているのか、代表的な 3 つのグローバル・ランキングを比較したのが、表 2 である。ランキング・システムによってその評価項目は大きく異なるが、かなり単純な指標であることは共通している。大学の活動は教育・研究を中心に複雑なため、こうした評価項目で大学を評価することに（特に大学関係者から）それが大学の実態を正しく反映していないという批判の声が強い。こうした批判に対しては、ランキングを発表している各機関がその評価内容に関して改善をしているが、こうした批判に対して最も配慮しているのは EU が支援して生まれた U-Multirank かもしれない。これは、5 カテゴリーで 40 以上の指標を大学評価に用いている。また、それ

http://www.iti.or.jp/

らの指標を総合したランキング指標をあえて作らず、利用者の目的に応じて各自が指標を使えるようにしている。しかし、こうした試みにしても、高等教育の実態を数値指標だけで評価するのは難しい。高等教育には数値では表現できない側面がたくさんあるからである。

表２　ランキング評価項目

Times Higher Education, World University Rankings	
Teaching: the learning environment	30.0%
Research: volume, income and reputation	30.0%
Citations: research influence	30.0%
Industry income: innovation	2.5%
International outlook: staff, students and research	7.5%

上海交通大学 Academic Ranking of World Universities	
alumni winning Nobel Prizes and Fields Medals	10.0%
staff winning Nobel Prizes and Fields Medals	20.0%
highly cited researchers in 21 broad subject categories	20.0%
articles published in the journals Nature and Science	20.0%
the Science Citation Index and Social Sciences Citation Index	20.0%
the per capita academic performance (on the indicators above) of an institution	10.0%

QS World ranking	
Academic Reputation from global survey	40.0%
Employer Reputation from global survey	10.0%
Faculty Student Ratio	20.0%
Citations per Faculty from Scopus	20.0%
Proportion of International Students	5.0%
Proportion of International Faculty	5.0%

QS Asia ranking	
Academic Reputation from global survey	30.0%
Employer Reputation from global survey	10.0%
Faculty Student Ratio	20.0%
Citations per Paper from Scopus	15.0%
Papers per Faculty from Scopus	15.0%
Proportion of International Faculty	2.5%
Proportion of International Students	2.5%
Proportion of Inbound Exchange Students	2.5%
Proportion of Outbound Exchange Students	2.5%

http://www.iti.or.jp/

こうしたランキング指標の不完全性を嘲笑したり無視したりするのはた易い。しかし、そうした姿勢だけでは、ランキング指標の持つ社会的な影響を見落とすことになる。グローバル・ランキングの持つ社会的な影響力こそが、大学経営や学生の動向、研究教育の質、さらには教育政策にも大きな影響を及ぼしうるものなのである。

（2）グローバル・ランキングと高等教育との関係

上記したように高等教育の輸出産業化を考える上で最も重要なのは、留学の形態（表 1 のカテゴリーⅢ）であるが、これはサービス輸出の提供形態としては、「観光」に近い。すなわち、サービスの消費者が生産者の場所まで移動してサービスを受ける形態である。観光地にとって知名度を上げ多くの観光客を誘致するのに例えば世界遺産の指定は重要な意味を持つ。すなわち、世界遺産指定はすでに一定の社会的な評価を獲得しているため、観光客は世界遺産指定の妥当性を吟味したりはしない。例えば、それが真に歴史的価値、文化価値を評価しているのか、あるいはその自然環境が人類にとって真に価値のあるものなのか、あるいは、世界遺産の選定プロセスが公平で学術的な検証に耐え得るものなのか、などといったことは観光客の主たる関心事ではない。彼らは単に世界遺産という社会的に認められたブランドを判断基準として観光地を選び、その需要に応えるために多くのツアーが企画される。高等教育とグローバル・ランキングの関係は、ちょうど観光地と世界遺産指定の関係に近い。すなわち、大学／大学院を選択しようとする学生にとっては、すでに社会的に認知されているグローバル・ランキングでどのように評価されているのかという事実そのものが重要であり、グローバル・ランキングという制度が大学の価値を正しく計測・反映しているか、というようなことには多くの学生は関心を持たないであろう。学生にとって、あるいは出資者である学生の両親にとって重要なのは、その投資に見合うだけのリターン、具体的には、本国に戻った時に当該大学／大学院に行っ

http://www.iti.or.jp/

たことが就職時も含めて社会的に評価されるかどうかという点である。以前であれば、アジアの中での日本の高等教育のステータスは高かったため、日本に留学するだけで評価されたかもしれない。しかも、その当時は個別の大学を評価するような一般的な尺度は存在していなかった。しかし、現在では、大学を国際的に比較する共通尺度としてグローバル・ランキングが使われるようになりつつあり、しかも、インターネットを通じて誰でも容易にアクセスすることができる。そこでは、そうしたランキング指標が大学の実態を正しく評価しているかということよりも、それが社会的に認知されているかどうかということの方が重要である。どれほど正確な指標を作っても、それが社会的に認知されていなければ、別言すれば、多くの人が利用していなければ、意味を持たない。ちょうど、キーボードの QWERTY 配列と同じで、どれほど打ちやすいキーボードを作成しても、そのキーボードが社会全体に普及していなければ誰も使わない。キーボードの良し悪しに関係なく、一旦それが社会的に定着した後では、誰でもそれを使わざるを得なくなる。そしてネットワーク外部性が働いているようなこうした状況下では、一旦、それが社会に定着すると、その状況を変えるのは非常に難しくなる。現在のグローバル・ランキングは、まさにそうした状況になりつつあるのである。

（3）日本の少子化と大学の国際競争

日本で大学ランキングと言うと、ほとんどが国内ランキングである。大手予備校が出すような偏差値が国内の大学ランキングを決める一つの基準になる。偏差値以外にも、就職ランキングや大学の魅力を高校生に聞いて決める場合もあるが、調査対象となる大学も評価者も国内に限られる。日本の大学に通う学生の大部分が日本人だという前提に立てば、日本人による日本の大学の評価ということには一定の合理性がある。実際、多くの日本の大学は自大学の国際評価ということに関して、これまであまり注意を払ってこなかったように思われる。それでは、グローバ

http://www.iti.or.jp/

ル・ランキングは、日本の大学にとってどれほどの意味があるのだろうか。日本の大学が直面している課題は多いが、中でも少子化問題は今後の日本の高等教育の在り方に大きな影響を与えると考えられる。現時点でも日本の私立大学の半分近くが定員割れの状態で、これは、大学経営を圧迫するだけでなく、入試の安易化から高等学校の教育の質にも大きな影響を与えるだろう。こうした大学では定員の確保のために留学生を確保しようとすることは自然の流れである。他方、上位大学、特に大学院レベルでは優秀な学生や研究者の獲得をめぐって大学間の国際的な競争が一層、激しさを増している。

その一方で、日本を取り巻く高等教育の国際環境はここ 10 年ほどで大きく変化している。現在、日本で学ぶ留学生の 90%以上はアジアからだが、日本の大学のブランド力はアジアの中でも相対的に落ちつつある。アジアを中心とした新興諸国においては、高等教育の育成にも大きな力を注いでおり、実際、後述するように、多くのアジアの大学が国際ランキングで日本の大学を凌駕するようになってきている。

4．世界大学ランキングにおける日本の地位の急落

表 3 は、スーパーグローバル大学創生支援事業に選出された大学の 3 大グローバル・ランキングにおける順位である。安倍首相は今後 10 年以内に 10 校の日本の大学を世界ランキング 100 位以内に入れると表明している[2]が、最近の傾向を見る限り、目標達成はそれほど容易ではない。また、表 4～7 では、アジアの大学のランキングとその 2012-2014 年の変化を国ごとに示してある[3]。

この表を見て気付く第 1 の傾向は、日本の大学の国内ランキング（多くは偏差値による）と日本の外からの評価とに大きな隔たりがあるという点である。表 4 では特に多くの名門もしくは中堅の日本の私立大学が、あまり上位に位置していない一方で、国立大学が比較的上位に位置している。こうした評価になる一つの理由は、グローバル・ランキングに占める「研究」のウェイトが高いこと、別の表現をすると、国際的に引用さ

http://www.iti.or.jp/

れる英語で論文を書いている理工系が優位に評価されることがある。第2 の傾向は、ここ数年で日本の大学のランキングの低下が著しいという点である。これは、韓国、中国など他のアジア諸国と比較すると明らかである。これらの国の大学は、単に順位を上げているだけでなく、ランキングの水準自体が日本と同じか、これを凌駕している。

表３　世界３大ランキングにおけるスーパーグローバル大学（Type A）の位置づけ

	QS（2014/2015）		Times Higher Education（2014/2015）		上海交通大学（Academic Ranking of World Universities 2014）	
100番以内	31	東京大学	23	東京大学	21	東京大学
	36	京都大学	59	京都大学	26	京都大学
	55	大阪大学			78	大阪大学
	68	東京工業大学				
	71	東北大学				
100～199番	103	名古屋大学	141	東京工業大学	101-150	北海道大学
	126	九州大学	157	大阪大学	101-150	名古屋大学
	135	北海道大学	165	東北大学	101-150	東北大学
	197	慶應義塾大学			151-200	九州大学
	198	筑波大学			151-200	東京工業大学
200～299番	220	早稲田大学	226-250	名古屋大学	201-300	筑波大学
	294	東京医科歯科大学	276-300	東京医科歯科大学		
300～399番	314	広島大学	301-350	筑波大学	301-400	広島大学
			351-400	九州大学	301-400	慶應義塾大学
			351-400	北海道大学	301-400	東京医科歯科大学
			351-400	早稲田大学		
400番以下			400+	慶應義塾大学	401-500	早稲田大学
				広島大学		

http://www.iti.or.jp/

表４　QS Asia Ranking（日本）

	Rank 2014		ranking 変化＊	Rank 2012	
50番以内	10	The University of Tokyo	⇩ -2	8	The University of Tokyo
	12	Kyoto University	⇩ -2	10	Kyoto University
	13	Osaka University	⇩ -2	11	Osaka University
	15	Tokyo Institute of Technology	⇩ -2	13	Tokyo Institute of Technology
	18	Tohoku University	⇩ -4	14	Tohoku University
	20	Nagoya University	⇩ -2	18	Nagoya University
	23	Hokkaido University	⇩ -2	22	Kyushu University
	24	Kyushu University	0	23	Hokkaido University
	34	University of Tsukuba	⇩ -5	30	Keio University
	35	Keio University	⇩ -2	32	University of Tsukuba
	43	Kobe University	⇩ -4	39	Kobe University
	44	Waseda University	⇩ -2	42	Waseda University
	47	Hiroshima University	⇩ -3	44	Hiroshima University
51～100番	61	Tokyo Medical and Dental University	⇩ -10	52	Chiba University
	62	Chiba University	0	61	Tokyo Medical and Dental University
	67	Kanazawa University	⇩ -28	62	Osaka City University
	88	Okayama University	⇩ -38	72	Nagasaki University
	90	Osaka City University	⇩ -30	73	Tokyo University of Science
	94	Tokyo Metropolitan University	⇩ -19	75	Tokyo Metropolitan University
	96	Tokyo University of Agriculture and Technology	⇧ 10	77	Kanazawa University
	99	Kumamoto University	⇩ -16	80	Tokyo University of Agriculture and Technology
			⇩ -36	81	Yokohama City University
			⇩ -11	88	Kumamoto University
			⇧ 2	90	Okayama University
			⇩ -29	93	Niigata University
101～150番	103	Tokyo University of Science	⇩ -34	106	Gifu University
	110	Nagasaki University	⇩ -30	107	Osaka Prefecture University
	117	Yokohama City University	⇩ -29	109	Shinshu University
	119	Saitama University	⇩ -19	111	Gunma University
	122	Niigata University	⇩ -33	115	Yokohama National University
	130	Gunma University	⇩ -58	117	Toyota Technological Institute
	137	Osaka Prefecture University	⇩ -30	125	Yamaguchi University
	138	Shinshu University	⇧ 11	130	Saitama University
	140	Gifu University	⇩ -24	131	University of Miyazaki
	148	Yokohama National University	⇩ -93	132	Nara Women's University
	149	Tokai University	⇩ -21	134	Kitasato University
			⇩ -37	138	Ochanomizu University
			⇩ -10	139	Tokai University
			⇩ -19	146	Mie University
			⇩ -78	147	Kyoto University of Education
151～200番	151-160	Kagoshima University		151-160	Kagoshima University
	151-160	Kitasato University		151-160	Kyoto Institute of Technology
	151-160	University of Miyazaki		151-160	Shizuoka University
	151-160	Yamaguchi University		161-170	Kinki University (Kindai University)
	161-170	Gakushuin University		161-170	Kochi University
	161-170	Mie University		161-170	Ritsumeikan University
	161-170	Ritsumeikan University		161-170	Saga University
	161-170	Sophia University		161-170	Sophia University
	161-170	Yamagata University		171-180	Gakushuin University
	171-180	Kyoto Institute of Technology		171-180	Hirosaki University
	171-180	Ochanomizu University		171-180	Yamagata University
	171-180	Shizuoka University		181-190	Akita Prefectural University
	171-180	Toyota Technological Institute		181-190	Iwate University
	181-190	International Christian University		191-200	International Christian University
	181-190	Kochi University		191-200	Kyushu Institute of Technology
	181-190	Rikkyo University		191-200	Nihon University
	191-200	Kyushu Institute of Technology			
	191-200	Saga University			
201～250番	201-250	Akita International University		201-250	Aoyama Gakuin University
	201-250	Akita Prefectural University		201-250	Doshisha University
	201-250	Aoyama Gakuin University		201-250	Future University Hakodate
	201-250	Hirosaki University		201-250	Japan Women's University
	201-250	Iwate University		201-250	Kyoto Women's University
	201-250	Japan Women's University		201-250	Rikkyo University
	201-250	Kinki University (Kindai University)		201-250	Yamaguchi Prefectural University
	201-250	Kyoto University of Education			
	201-250	Meiji University			
	201-250	Nara Women's University			
	201-250	Nihon University			
	201-250	The University of Shimane			

＊）ランキングが「○○～○○番」のように範囲で示してあるものは、ランキング変化は中位数の差で示してある。

表５　QS Asia Ranking（韓国）

	Rank 2014		Rank 2012		
			ranking 変化＊		
50番以内	2	KAIST - Korea Advanced Institute of Science and Technology	0	4	Seoul National University (SNU)
	4	Seoul National University (SNU)	⇧ 5	7	KAIST - Korea Advanced Institute of Science and Technology
	9	Pohang University of Science and Technology (POSTECH)	0	9	Pohang University of Science and Technology (POSTECH)
	16	Yonsei University	0	16	Yonsei University
	17	Sungkyunkwan University	⇧ 3	21	Korea University
	18	Korea University	⇧ 7	24	Sungkyunkwan University
	29	Hanyang University	⇧ 4	33	Hanyang University
	37	Kyung Hee University	⇧ 1	40	Ewha Womans University
	39	Ewha Womans University	⇧ 4	41	Kyung Hee University
51～100番	54	Sogang University	⬇ -3	51	Sogang University
	68	Chung-Ang University	⬇ -5	63	Pusan National University
	68	Pusan National University	⬇ -28	68	Inha University
	73	Hankuk (Korea) University of Foreign Studies	⬇ -4	69	Hankuk (Korea) University of Foreign Studies
	81	University of Seoul	⬇ -15	70	Kyungpook National University
	85	Kyungpook National University	⇧ 14	82	Chung-Ang University
	87	Chonbuk National University	⇧ 2	83	University of Seoul
	91	The Catholic University of Korea	⇧ 3	94	The Catholic University of Korea
	96	Dongguk University	⬇ -20	99	University of Ulsan
	96	Inha University			
101～150番	101	Chonnam National University	⬇ -34	100	Hallym University
	113	Chungnam National University	⬇ -12	102	Ajou University
	114	Ajou University	⇧ 16	103	Chonbuk National University
	119	University of Ulsan	⬇ -26	116	Konkuk University
	134	Hallym University	⇧ 19	120	Chonnam National University
	142	Konkuk University	⇧ 13	126	Chungnam National University
	147	Yeungnam University	⬇ -38	127	Gyeongsang National University
			⇧ 32	128	Dongguk University
			⬇ -35	140	Inje University
			⇧ 3	150	Yeungnam University

＊）ランキングが「○○～○○番」のように範囲で示してあるものは、ランキング変化は中位数の差で示してある。

表６　QS Asia Ranking（中国）

	Rank 2014		Rank 2012		
			ranking 変化＊		
50番以内	8	Peking University	⇩ -2	6	Peking University
	14	Tsinghua University	⇧ 1	15	Tsinghua University
	22	Fudan University	⇩ -3	19	Fudan University
	25	University of Science and Technology of China	⇩ -6	25	Zhejiang University
	26	Nanjing University	⇧ 2	27	University of Science and Technology of China
	28	Shanghai Jiao Tong University	⇧ 2	28	Nanjing University
	31	Zhejiang University	⇧ 1	29	Shanghai Jiao Tong University
	42	Beijing Normal University	⇧ 3	45	Beijing Normal University
	50	Nankai University			
51～100番	54	Sun Yat-sen University	⇩ -2	55	Xi'an Jiaotong University
	57	Xi'an Jiaotong University	⇧ 3	57	Sun Yat-sen University
	63	Wuhan University	⇧ 1	66	Tongji University
	65	Tongji University	⇧ 17	67	Nankai University
	72	Shanghai University	⇩ -22	71	Tianjin University
	77	Harbin Institute of Technology	⇧ 16	79	Wuhan University
	78	Renmin (People's) University of China	⇧ 7	84	Harbin Institute of Technology
	79	Beihang University (former BAUU)	⇧ 1	85	Southeast University
	79	Beijing Institute of Technology	⇧ 23	95	Shanghai University
	84	Southeast University	⇧ 17	96	Beijing Institute of Technology
	85	Xiamen University	⇧ 19	97	Renmin (People's) University of China
	93	Tianjin University	⇩ -4	98	Huazhong University of Science and Technology
	99	East China University of Science and Technology			
101～150番	102	Huazhong University of Science and Technology	⇧ 22	101	Beihang University (former BAUU)
	103	China Agricultural University	⇩ -29	104	University of Science and Technology Beijing
	105	Jilin University	⇧ 27	112	Xiamen University
	106	Shandong University	⇧ 13	119	Shandong University
	108	East China Normal University	⇧ 23	122	East China University of Science and Technology
	109	Beijing Jiaotong University	⇧ 15	123	East China Normal University
	111	Sichuan University	⇧ 19	124	Jilin University
	118	Beijing University of Technology	⇧ 20	129	Beijing Jiaotong University
	125	Dalian University of Technology	⇧ 8	133	Dalian University of Technology
	133	University of Science and Technology Beijing	⇧ 18	136	Beijing University of Technology
	136	Lanzhou University	⇧ 34	137	China Agricultural University
	139	Central South University	⇩ -9	141	Beijing Foreign Studies University
	150	Beijing Foreign Studies University	⇧ 38	149	Sichuan University

＊）ランキングが「○○～○○番」のように範囲で示してあるものは、ランキング変化は中位数の差で示してある。

表７　QS Asia Ranking（その他アジア）

	Rank 2014			Rank 2012			
				ranking 変化＊			
50番以内	1	National University of Singapore (NUS)	SG	⇩ -4	1	The Hong Kong University of Science and Technology (HKUST)	HK
	3	University of Hong Kong (HKU)	HK	⇧ 1	2	National University of Singapore (NUS)	SG
	5	The Hong Kong University of Science and Technology (HKUST)	HK	0	3	University of Hong Kong (HKU)	HK
	6	The Chinese University of Hong Kong (CUHK)	HK	⇩ -1	5	The Chinese University of Hong Kong (CUHK)	HK
	7	Nanyang Technological University (NTU)	SG	⇧ 1	12	City University of Hong Kong	HK
	11	City University of Hong Kong	HK	⇧ 10	17	Nanyang Technological University (NTU)	SG
	21	National Taiwan University (NTU)	TW	⇩ -1	20	National Taiwan University (NTU)	TW
	27	The Hong Kong Polytechnic University	HK	⇩ -1	26	The Hong Kong Polytechnic University	HK
	29	National Chiao Tung University	TW	⇩ -2	31	National Tsing Hua University	TW
	32	Universiti Malaya (UM)	MY	⇩ -7	34	Indian Institute of Technology Bombay (IITB)	IN
	33	National Tsing Hua University	TW	⇧ 3	35	Universiti Malaya (UM)	MY
	36	National Cheng Kung University	TW	⇩ -2	36	Indian Institute of Technology Delhi (IITD)	IN
	38	Indian Institute of Technology Delhi (IITD)	IN	⇧ 1	37	National Cheng Kung University	TW
	40	Mahidol University	TH	⇩ -2	38	Mahidol University	TH
	41	Indian Institute of Technology Bombay (IITB)	IN	⇩ -5	43	Chulalongkorn University	TH
	45	Hong Kong Baptist University (HKBU)	HK	⇩ -8	45	Indian Institute of Technology Madras (IITM)	IN
	46	Taipei Medical University	TW	⇩ -5	47	Indian Institute of Technology Kanpur (IITK)	IN
	48	Chulalongkorn University	TH	⇧ 3	48	Hong Kong Baptist University (HKBU)	HK
	49	National Yang Ming University	TW	⇧ 20	49	National Chiao Tung University	TW
				⇧ 1	50	National Yang Ming University	TW
51～100番	51	National Taiwan University of Science and Technology	TW	⇩ -6	53	National Central University	TW
	52	Indian Institute of Technology Kanpur (IITK)	IN	⇧ 3	54	National Taiwan University of Science and Technology	TW
	53	Indian Institute of Technology Madras (IITM)	IN	⇩ -4	56	Indian Institute of Technology Kharagpur (IITKGP)	IN
	56	Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM)	MY	⇧ 2	58	Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM)	MY
	59	National Central University	TW	⇩ -12	59	University of Indonesia	ID
	60	Indian Institute of Technology Kharagpur (IITKGP)	IN	⇩ -13	60	National Sun Yat-sen University	TW
	66	Universiti Teknologi Malaysia (UTM)	MY	⇧ 18	64	Taipei Medical University	TW
	70	Indian Institute of Technology Roorkee (IITR)	IN	⇩ -5	65	Indian Institute of Technology Roorkee (IITR)	IN
	71	University of Indonesia	ID	⇧ 8	74	Universiti Teknologi Malaysia (UTM)	MY
	73	National Sun Yat-sen University	TW	0	76	Universiti Putra Malaysia (UPM)	MY
	75	National Taiwan Normal University	TW	⇩ -3	78	University of Delhi	IN
	76	Universiti Putra Malaysia (UPM)	MY	⇩ -29	86	Ateneo de Manila University	PH
	81	Chang Gung University	TW	⇧ 12	87	National Taiwan Normal University	TW
	81	University of Delhi	IN	⇩ -6	89	Indian Institute of Technology Guwahati (IITG)	IN
	89	National Chung Hsing University	TW	⇩ -1	91	Chiang Mai University	TH
	92	Chiang Mai University	TH	⇧ 11	92	Chang Gung University	TW
	95	Indian Institute of Technology Guwahati (IITG)	IN				
101～150番	115	Ateneo de Manila University	PH	⇧ 16	105	National Chung Hsing University	TW
	116	Aga Khan University	PK	⇩ -21	108	National University of Sciences and Technology (NUST) Islamabad	PK
	119	National Chengchi University	TW	⇩ -24	110	Thammasat University	TH
	123	National Taipei University of Technology	TW	⇩ -6	113	National Chengchi University	TW
	125	Bandung Institute of Technology (ITB)	ID	⇩ -12	113	Bandung Institute of Technology (ITB)	ID
	127	Airlangga University	ID	⇩ -27	118	Universitas Gadjah Mada	ID
	128	Lingnan University (Hong Kong)	HK	⇩ -7	121	Lingnan University (Hong Kong)	HK
	129	National University of Sciences and Technology (NUST) Islamabad	PK	⇧ 8	135	Airlangga University	ID
	131	University of Mumbai	IN	⇩ -13	142	De La Salle University	PH
	131	University of Calcutta	IN	⇧ 12	143	University of Calcutta	IN
	134	Thammasat University	TH	⇩ -31	144	National Chung Cheng University	TW
	141	University of Santo Tomas	PH	⇧ 3	145	Prince of Songkla University	TH
	142	Prince of Songkla University	TH	⇧ 7	148	University of Santo Tomas	PH
	145	International Islamic University Malaysia (IIUM)	MY				
	145	Universitas Gadjah Mada	ID				

＊）ランキングが「○○～○○番」のように範囲で示してあるものは、ランキング変化は中位数の差で示してある。

HK：香港、ID：インドネシア、IN：インド、MY：マレーシア、PH：フィリピン、PK：パキスタン、SG：シンガポール、TH：タイ、TW：台湾

５．高等教育と日本の将来

筆者が、こうした問題に関して、ランキング・システムの関係者やOECD の教育局の関係者にヒアリングを行った際に異口同音に言われたのは、上記のような近年のダイナミックな環境変化に日本は十分に対応できず、取り残されているのではないか、という点であった。例えば韓国などは国内労働市場も小さいため、高等教育の面でも世界で生き抜くための方策を必死に探っているように見える。しかし、日本は経済でも人口でも一定の規模が確保されているため、これまでは外の世界の変化をそれほど気にしなくても、日本の中で完結できていたのかもしれない。しかし、今後は若年人口の減少も加わり、何もしなければ長期的な低落は免れないだろう。

債権の格付けと同様で、格付けが妥当かどうかの議論はあっても格付けがなくなることはない。それは、投資家が格付けを必要としているからである。同様のことは大学とグローバル・ランキングの関係でも言える。ランキングが大学評価指標として妥当かどうかの議論はあっても、ランキング情報を必要としている学生や企業の採用担当者のような市場がある限り、ランキングの必要性は今後もますます高まっていくだろう。その結果、ランキング事業は一つのビジネス・モデルとして今後も拡大していくだろう[4]。

グローバル・ランキングの重要性が増すにつれ、それは高等教育機関や高等教育行政にも大きな影響を与えるようになってきている。すでに日本でもスーパーグローバル大学創生支援事業（タイプ A）などで、資金配分の評価項目ないしは目標にグローバル・ランキングが使われるようになってきている。韓国の大学の一部には先進的な試みとして、インセンティブ・システムを導入し、研究者自身の給与を研究業績（例えば、国際ジャーナルに掲載すると高いポイントが加算されるなど）に連動させ、学部ごとの予算配分にも学部全体のパフォーマンスを反映させる、あるいは英語で授業を行うと給与に加算されるなどの制度を導入しているところがある。ここでは論文数が増え、グローバル・ランキングも順

http://www.iti.or.jp/

位を大きく上げた。こうした試みを日本で行おうとすれば、大きな反発を生むだろうし、場合によっては、大学の教育研究のあり方を歪める可能性もある。しかし、その一方で、やり方の妥当性はともかく、優秀な学生や研究者を集めることで教育研究能力を上げ、ランキングも上げることに成功すれば、それによってさらに有力な大学との協定締結や優秀な学生・研究者が集まるという好循環に入るかもしれない。

日本はこれまで奨学金を提供してでも留学生を日本に呼び込むことが、長期的な日本の国益に結びつくという姿勢だった。しかし、巨大な財政赤字のもとで奨学金に頼った受け入れ留学生の拡大には限界がある。サービス貿易として高等教育の輸出が増えること、すなわち授業料を負担して日本に留学してくる学生が増えることになれば、それは日本の教育の質保証の顕れであり、研究水準が国際競争力を保っていることの証でもあり、教育行政上も望ましい現象のはずである。しかし、良い研究を行い、良い教育を実践していれば、自動的にグローバル・ランキングが高まるものでもないこともこれまでの経験から明らかである。21 世紀に入って世界が知識集約的な産業社会に移行する中で、グローバル・ランキングの動向は、高等教育機関に留まらず、日本全体の競争力を左右しうる重要な課題である。

【参考文献】

佐々波楊子、浦田秀次郎（1990）『サービス貿易　理論・現状・課題』東洋経済新報社

Hazelkorn, E（2015）, *Rankings and the Reshaping of Higher Education: The Battle for World-Class Excellence, 2nd edition,* Palgrave Macmillan

Hénard, F, Diamond, L, and Roseveare, D（2012）*Approaches to Internationalization and Their Implications for Strategic Management and Institutional Practice,* OECD

Maringe, F and Gibbs, P（2009）*Marketing Higher Education -Theory and Practice,* Open University Press

注

1　アメリカの国際収支統計のサービス貿易のうち、Travel の中の Education related

の項目。

2　平成 25 年 5 月 17 日、安倍総理「成長戦略第２弾スピーチ」（日本アカデメイア）

3　ここではアジアの大学について詳細なランキングを発表している代表的なランキング・システムである QS アジア・ランキングで比較してある。なお、QS アジア・ランキングは、QS 世界ランキングとは異なる評価基準でランキングを行っているため、世界ランキング表からアジアの大学だけを抜粋したものでは無い。

4　2015 年には、三井物産が QS に資本参加したが、これもランキング・ビジネスがこれからの日本やアジアで有望とみなしたからかもしれない。